

4 児童の「できた!」「分かった!」の質を高める学習過程の一場面 (10/11時)

教師と児童のやり取りの詳細

つかむ段階において、わられる数とわる数、商の関係に着目させていく場面。商が4になる除法を1つ例として示し、商が4になる他の除法を子供たちから引き出すようにします。それらをカードに書き、「あえて」ランダムに黒板に貼っていくようにしていきます。



8 ÷ 2 の答えは何ですか?

「4」です。



他にも答えが「4」になるわり算を知っていますか?

$$24 \div 6 = 4$$

$$16 \div 4 = 4$$

$$4 \div 1 = 4$$

$$40 \div 10 = 4$$



上手に並べることができないでしょうか?

できます!



- ・きまりを見付けるために、数を順番に並べることは大切な活動です。そのために、はじめは敢えてランダムに黒板に貼るようにします。
- ・その際に、児童に並べ替えをさせながら、所々で次のような発問をして、数と数の関係に着目させていきましょう。

$4 \div 1 = 4$
$8 \div 2 = 4$
$16 \div 4 = 4$
$24 \div 6 = 4$
$40 \div 10 = 4$



(並べた式を示して) 変わらない数がありますか?

答えの「4」です。



そうですね。答えの「4」は、いつも同じで変わりませんね。では、変わる数がありますか?

わられる数が「4」から「8」「16」と変わっています。



わる数は「1」から「2」「4」と変わっています。



他にもあります。



- ・「8」「16」を【わられる数】、「2」「4」を【わる数】ということを確認し、これらの言葉を意識させて使わせていきましょう。



わられる数とわる数の変わり方には何かきまりがありそうですか?



- ・数に着目させる発問をしたり、数と数との関係に着目させる発問をしたりすることで、除法のきまりにつながる考えを引き出すことができます。また、児童が自らきまりを見付けようとする姿を引き出すこともできます。このような姿を価値付けることが大切です。
- ・被除数「4」から「8」と除数「1」から「2」との対応するきまりを引き出したら、他の式の被除数と除数との関係においてもきまりがあるのかを問うことで、学習のめあてにつなげることができます。また、複数の式において、数と数との関係を調べていくことで一般化を図ることにもつながります。